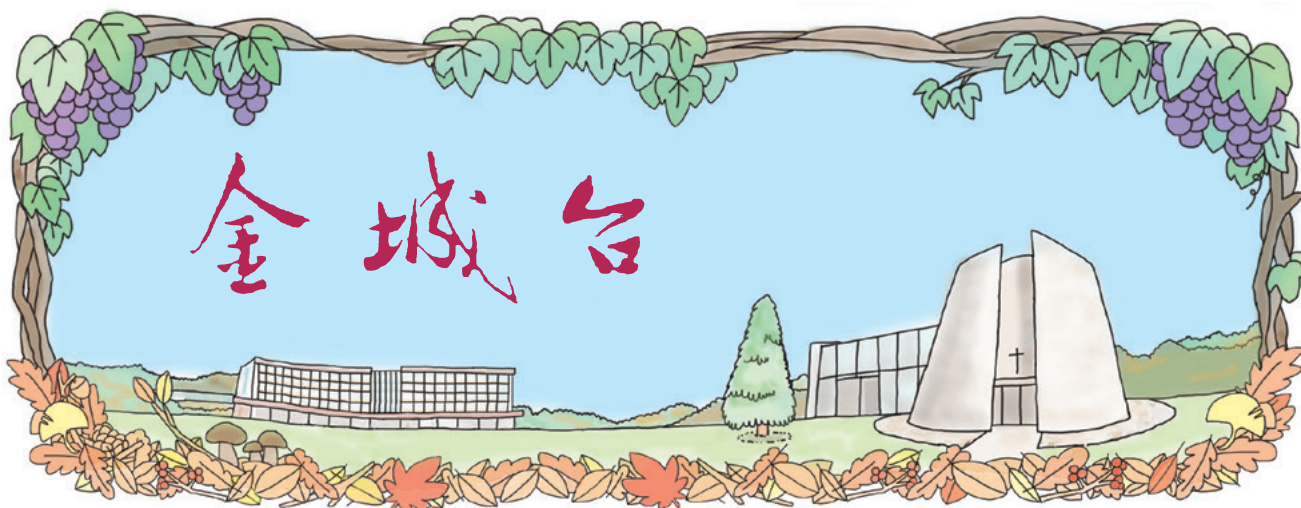




巻頭言

「聞くことから始まる —— ラジオ100年」

(新約聖書 ローマの信徒への手紙 第10章17-18節)

SNSの普及によって誰もが情報を発信できる時代となり、昨今メディアを取り巻く環境は大きく変化しつつあります。そのような中、今年2025年は日本初のラジオ放送開始から100年という節目の年を迎えました。1925年、公共性を重視して始まったラジオは、1951年に民間放送が始まり、名古屋の「中部日本放送局（CBC）」が日本初の民間放送ラジオ局となりました。

このCBCにおいて、1952年から放送されている「キリストへの時間」は、実質同局の最長寿番組とされ、現在も毎週日曜日の朝6:30から約15分間放送されています。番組は、讃美歌、聖書朗読、とメッセージといった短い礼拝形式となっており、アメリカ南長老教会——金城学院のルーツ——の宣教師たちの活動から始まりました。現在も、日本基督教団、日本キリスト改革派教会、そして、金城学院、名古屋学院、岐阜済美学院、RCJメディアミニストリーの協力と多くの方々のご支援のもと放送が続けられています。私も番組内で担当したことがあります（写真参照）。

それにしても、現代ではインターネットによる情報発信が主流で、教会の礼拝もオンラインで視聴可能な時代です。そのような時代に、今なおラジオで聖書のメッセージを発信する意味はあるのでしょうか。ある若いタレントの方が「今はラジオで音楽を聴くのが新しい」と語っていたのを聞いたことがあります。ラジオには偶然の出会いがある。サブスクでは自分の好みに偏るが、ラジオでは思いがけない音楽や言葉に出会うことができ、それが新鮮なのだと。

聖書の言葉に、「信仰は聞くことにより、しかも、キリストの言葉を聞くことによって始まる」とあります（ロー

文学部宗教主事

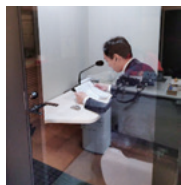
おち あい けん じ
落 合 建 仁



マ10:17)。これは、伝道者パウロが、信仰とは——つまりイエスをキリストと信じること——それは御言葉に耳を傾けるところから始まるということを説明したものです。そして、前後の文脈から分かることなのですが、その際、信じることと聞くことは、人間の側の決意や意志によるのではなくて、どこまでも神の恵みとして与えられるのだ、ということをもパウロが述べているところでもあります。それはまた、神様のことを思う心というものは、神の側からの語りかけ、働きかけによってこそ生じ、与えられていくものということでもあります。

信仰は聞くことによって始まる——皆さんが本学で経験された礼拝やキリスト教の授業などは、必ずしも自らの選択によらない形で提供された機会であったかもしれません。けれども、ラジオのように、自分の意志や計画とは関係なく届く語りかけの中に、思いがけない出会いや驚き、恵みがあったりするのかもかもしれません。どうか、皆さんのこれからの歩みにおいて、自らの意志を超えて働かれる語りかけや導きについて思い巡らしていく歩みの上に、祝福が豊かにありますように。

ラジオ番組「キリストへの時間」は「radiko（ラジコ）」（スマートフォンやパソコン等でラジオが聴ける音声サービス）で聴くこともできます。<<https://radiko.jp/>>または右のQRからアクセスして「キリストへの時間」と番組検索してみてください。



私の教会

日本基督教団鳴海教会

日本基督教団鳴海教会牧師

つじ じゅん こ
辻 順 子



私たちの教会は名鉄鳴海駅から歩いて10分程の所に建っています。駅から歩くと途中に旧東海道、鳴海宿跡、鳴海城跡などの史跡を見ることができます。教会の周囲を取り囲むような形で桶狭間の合戦縁の地が点在し、歴史を感じられる土地です。

そのような土地で教会が始まったのは今から70年近く前のこと。二人の婦人の祈りに答えて、神様はこの地に教会を開かせて下さいました。今までの歩みの中で多くの金城の生徒さんが教会に足を運び、キリストと出会い、信仰と奉仕の歩みを続けて来ました。今も信仰を与えられた金城の卒業生が教会員としての様々な働きを担ってくださっています。

鳴海教会は毎週日曜日、朝9時の教会学校から始まります。現在、人数は多くありませんが、金城学院中高の生徒さんを中心に礼



拝を守り、礼拝後は聖書の学びのほか、工作をしたり、お茶会を開いたりして交わりを持っています。10時30分から始まる礼拝には様々な世代の人が集まり、礼拝を献げています。またクリスマスには毎年、金城のグリークラブOGから成る「エシュコルうたう会」の皆さまを迎えてコンサートを開いています。

平日は水曜日の午後に3つの集会を持っています。お勧めは第四水曜日に開かれる「なるみ集会」「動画で見るキリスト教」と題して映画、学びの動画、バーチャル聖地旅行などを楽しんでいます。

鳴海教会は小さな教会です。けれどもそこには70年前、たった二人の婦人の祈りを聞いて下さった神様の愛が満ち溢れています。誰でも神様の愛に触れることができる場所。それが教会です。そして神様はあなたのことも愛して招いていらっしゃいます。そのお招きに答えて、あなたも足を運んでみて下さい。

私の学生時代

～偶然の必然に導かれて～

あお やぎ ゆたか
青 柳 裕



大学進学は、ぼんやりと好きな科目を生かしたいという単純な理由だけで、工学部と薬学部を選択肢としました。現在のように大学の情報もほとんどなく、受験日に初めて大学を見るという状況でした。幸い幾つかの大学に合格しましたが、結局は高校担任の先生の一言で決めました。大学での生活は毎日楽しく、講義・実験実習に追われ、アルバイトなどはまったくできませんでした。大学3年生の春にアドバイザー教員である太田明廣先生（東京薬科大学薬学部・第2生薬学研究室教授、当時）のもとに成績表を受け取りに行った際、希望研究室を聞かれ、「免疫学教室」とお答えしたのですが、「夏休みの間実験しに来ないか」とのお誘いを受け、周りの教員スタッフや先輩の迷惑を顧



みず研究室に伺いました。結局この経験から研究室を選ぶことになるという、これもまた偶然でした。4年生

（筆者 中央）ではよき仲間

に恵まれ、充実した毎日でした。研究室旅行や毎週土曜夕方からの飲み会での同期、先輩、教員や卒業生との語らいは、今でも人生の宝物となっています。その後、大学院に進学、教授からは就職活動よりも、後悔のない研究をなさいとアドバイスをいただきました。幸い意中の1社を受験し、合格内定をいただきましたが、選択した製薬会社でも悔いのない研究生活を過ごせました。



（筆者 左）

これまでを振り返り、節目節目で大切な人との出会いや進路選択、イベントなどの「偶然」は、実は「必然」であったと思うことが多々あります。大切なことは、置かれた環境に感謝し、必ず誰かが見ていてくれることを信じ、全霊を傾け努力することではないかと思います。どんな運命であってもそれを必然と受け入れ、これまでの選択を幸せと選ぶ人生でありたいと願っています。

「キリスト教の時間」講演要旨

「Be Empowered for Transformation -私が変わる、世界を変える-」

日程：2025年6月12日(木)

講師：小 海 光

合同メソジスト教会牧師／宣教師
公益財団法人ウェスレー財団代表理事



金城学院の創立者アニー・ランドルフ先生が宣教師として日本へ来たのは、1888年です。それまで宣教師として世界に送られたのは男性の牧師だけだったため、中国で学校を作ってもインドで医療診療所を開いても、来たのは男の子たちだけでした。それを聞いたアメリカの教会の女性8名が、何万通という手紙を書いて、女性の先生や医者 of 宣教師を支えるための献金と祈りを募りました。集まった献金で Women's Foreign Missionary Society 女性海外伝道団体が立ち上げられるなど、女性宣教師たちは、金城学院も含め多くの学校や福祉施設を建てていきました。宣教師の名前と働きは多くの場合記憶に残ります。でも、彼女たちを支えた名も残っていない多くのクリスチャンの方々がいたことも忘れないでください。

ウェスレー財団プログラムの1つに、アジアの女性のためのリーダーシップセミナーがあります。アジア11カ国から若いクリスチャン女性たちが集まり、女性のリーダーシップについて学びます。アジアといっても、言葉や文化、歴史など違いはたくさんあるのですが、若い女性としての共通課題も多くあるということに気づきます。ジェンダー差別や暴力への恐れ、キャリアや教育の機会の不平等は、先進国でも発展途上国でも若い女性が直面している課題です。



指導できるスキルや素質がある完璧な人がリーダーだと思いがちです。聖書にもたくさんのリーダーと言われる人が出てきますが、皆、完璧で素晴らしい人たちではなく、失敗し、弱音も吐いて、でも神様の愛を信頼して歩んだ人たちでした。ウェスレー財団の



モットー“Be Empowered for Transformation”の Empower されるとは、まず自分を知り、愛することです。自分を愛せない人は他の人を愛することはできません。自分を愛するのは、完全で素晴らしい人だからではなく、欠けも弱さもある自分を神様が愛してくださるということを知り受け入れられるようになると力が湧いてくるのです。そして、他の人も同じように、弱さもあるけれど、自分とは違うギフトがあることが見えてくる。そのギフトを、ただ自分の幸福や安定した生活のためだけではなく、より良き社会と世界へと Transform するために他の人と一緒に努力しようとする人がリーダーです。これは金城学院大学の教育スローガン“強く優しく”と通じると思います。真の強さは地位や肩書きからくる力ではなく、自分が何者であるかを知ることから生まれます。優しさとは、人を傷つけることを恐れて、みんなに好かれることではありません。本当の優しさは、人を思いやる心、それは辛さや痛みを知ったからこそ出てくる共感の心です。

私たちの人生には、2つの大切な日があると言われます。WHEN— 私たちが生まれた日。WHY— なぜ生まれたのかを悟った日。神様はこうおっしゃいました。“私には目的がある。それは、平和と希望をもたらすもの。”(エレミヤ書29:11) 神様には、あなたという人を通して、平和を作る、希望を与える計画があるのです。そこに完璧さとか、成功、失敗はありません。神様の愛に信頼してあなたのWHYを探し続けるならば、その答えはきっと見つかるでしょう。神様はその歩みをあなたと共にしたいと思っておられるはずです。応援しています。

※ 講演の様子はこちらからご覧いただくことができます。

<https://youtu.be/HcD7cL1LIWs>



「キリスト教の時間」に出席して（学生の感想）

私が今回の講演の中で一番感銘を受けたことは小海氏の過去とアジア女子の共通の悩み、考え方です。講演の前半で小海氏がリーダーシップで1番大切なことは自分を知っていることだとお話しされていました。まさにこれこそ私が心理学科に入ったきっかけの一つでもあります。

お話によると以前の小海氏やアジアの女子の中にはいつも完璧でいなければいけないという考え方が根深くあったそうです。私自身も昔からこの考えを重視することが多くありましたが年を重ねるにつれて完璧でいることが邪魔をして足かせのようになってしまうことも多々ありました。しかし講演の中で自分の弱さを知って、辛さや痛みを知る人にこそ優しくなれる力を持つことができると知りました。まだまだ失敗を怖いと感じてしまう自分もいますが、協調性を持って周囲の人と積極的に関わることで経験するたくさんさんの失敗と、そこから得られる学び、やさしさを大事にすることが大切であると考えることができました。

小海氏やウェスレー財団が目指すものは、素晴らしいスキルや完璧な性格を持つ人を育てることではなく、自分の弱さや限界を知り、それを認めたうえで他人から学び、他人とともに社会をよくしていこうとする人を支えることだと思いました。

聖書には完璧ではないけれど信仰を持って歩んだ人がたくさん登場します。例えばモーセは出エジプト記の中でリーダーに選ばれながらも自分の弱さに直面し不安や不満を持ち、またペトロはイエスの弟子でありながらもイエスが捕まえられたときに3度も知らないと否認しています。彼も弱さを持つ存在でしたが悔い改め後に初代教会の柱となっています。

このように聖書にも完全でないものが神を信じて歩み、周囲と共に使命を果たしていく姿が描かれています。この姿にこそ、人間の本質的な強さを感じました。ウェスレー財団もまた、こうした弱さを通して強さに至る歩みを支えることに共に社会をよりよくしていく信念を感じていると私は講演のお話や同財団のホームページを通して思いました。

小海先生の講演で印象に残ったのは、1888年に来日した女性宣教師アニー・ランドルフさんの話です。当時、女性には牧師になることができず、宣教師として派遣されるのもほとんどが男性だけであり、学校を作っても男子しか通わず、医療施設も男性医師だけだったため、女性や子供たちが安心して通うことができなかったそうです。そんな中、アメリカの8人の女性たちが立ち上がり、「女性を世界に送りたい」という思いから何万通もの手紙を書き、資金を募ったという話には、鳥肌が立ちました。

またその裏には、「名も無きクリスチャンたち」が支えていたということも小海先生は強調しておられました。スポットライトを浴びる人だけでなく、裏で支える存在にも大きな意味があるという言葉に、私はとても励まされました。

もう一つ印象的だったのは、「人生には2つの大切な日がある。自分が生まれた日と、自分がなぜ生まれてきたのかを知る日」という言葉です。私はまだ、「なぜ自分が生まれてきたのか」にはっきりと答えられないけれど、きっとそれは少しずつ見つかっていくものなのだと思います。そして、その目的は、必ずしも特別なキャリアや大きな成果を出すことではなく、「平和と希望をもたらす」ような生き方をすることなのだと、この講演を通して気づきました。

リーダーシップとは、人を引っ張る力だけでなく、誰かを思い、支え、寄り添う力なのだと思います。そしてそれは、女性だから、若いから、まだ未熟だからといって持てないものではなく、むしろ悩みや弱さを経験している人こそが持てるものなのだと、私は信じられるようになりました。

この講演を聞いた今、私は自分の弱さや不安も、神様が与えてくださった一つの「賜物」だと思えるようになりました。これからの大学生活の中で、いろいろな経験を通して、自分の使命を少しずつ見つけていきたいと思っています。そして、どんなに小さなことでも、人に優しさや希望を届けられるような人になれるよう、努力していきたいです。

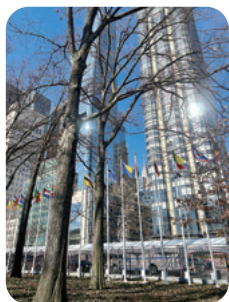
礼拝説教要旨

2025年5月1日(木) 昼の礼拝

「語ること／語らないこと」

文学研究科2年 沖崎 あ い み

私は今年三月にニューヨークの国連本部で開催された「国連女性の地位委員会（CSW69）」に参加しました。沖縄の女性をテーマに発表を行い、日本政府とブリーフィングを行いました。女性は保護されるべき存在ではなく、それぞれの「声」を持つ主体である——志を同じくする仲間と対話し、私自身がどれほど大きな励ましを受けたかは言葉に尽くせません。



3月9日から15日にかけて行われたこの委員会には、政府代表をはじめ、NGO団体や市民活動家など、174か国から多様な背景を持つ人々が集まりました。韓国で深刻化するオンラインでの性暴力問題や、戦時下のウクライナで女性が直面している課題など、さまざまな事例についてディスカッションが行われました。このように、世界中の女性たちと「女性として生きること」について考えるなかで、私はひとつの大きな気づきを得ました。日常、戦時中、私たちの状況はそれぞれ異なっていますが、すべての女性が暴力や抑圧に対して異議を訴え、立ち上がり、社会に確かな力を与えています。「女性として生きる」ことは、より大きな枠組みによって被害を受ける立場にあるような、「被害者」であるということと同義ではありません。私が今回目にしたのは、社会に変革をもたらすための主体としての女性たちの姿でした。

たとえば、韓国のセッションでは、SNSや動画配信サイトなどで女性に対して行われる性的な嫌がらせや誹謗中傷が、単なるネット上の問題ではなく、社会構造に根づく女性差別と密接に結びついていることが明らかにされました。その中で、こうした抑圧に声を上げ、連帯し、法改正や意識改革を訴える女性たちの姿が紹介されました。彼女たちは、「声をあげること」、つまり沈黙を破ることそのものが、すでに社会を変えていることを伝えました。また、



ウクライナのセッションにおいては、戦争という極限状態にあっても、女性たちが地域の再建に積極的に関わり、教育、医療、食料支援などの分野でリー

ダーシップを発揮していることが語られました。印象的だったのは、「私たちは戦争の被害者としてではなく、むしろ抵抗と再生の担い手だ」という発言です。

私はこの国連女性の地位委員会で、沖縄の女性たちの声を世界に届けることを使命としていました。資本主義、植民地主義、男性中心主義の交差点の中で、「なかったこと」にされてしまうことが多い沖縄の女性ですが、彼女たちは「被害者」ではありません。まさしく、ここには統計データだけでは伝わらない生が存在します。

しかし、今回私が痛感したのは、どんなに切実な声も、届け方や場がなければ「聞かれていない声」に終わってしまうという現実です。聞かれていない声は「なかったこと」にされてしまいます。もちろん、世界規模のフォーラムにおいてもこの事実は深刻な問題です。しかし、日常生活においても、そうです。「なかったこと」にされている声が多く存在します。家族や友達、大切な人の声を聞く場を持っていますか。



そして、あなた自身の声を届ける場所も持っていますか。自分自身の声を心から大切にしてほしいと思います。

もしかしたら、誰かの声に耳を澄ますばかりに聞こえなくなっていることもあるかもしれません。長い間無視してきたので、聞こえなくなっていることもあるかもしれません。私たちは誰しも、誰にも言えなかった本音や、うまく言葉にならない願いを持っていると思います。毎日の日常生活を反復してこなしていく中でも、自分の声を探し続けて、自身を大切にしてください。

聖書には「あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい」（マタイ22：39）とあります。この言葉の前提にあるのは、「自分自身を愛している」ことです。他者への思いやりはもちろん大切なものです。しかしその前提にあるのは、自分自身を尊ぶ気持ちです。あなたが大切に思う人も、もちろん大切です。ですがあなた自身も、無条件に、絶対に、とても大切な存在だと言い切ることができます。

今回私がニューヨークで出会った人たちは、誰かのために何かしたいと言う思いを持つと共に、自分は何のために立ち上がるのか、ひとりひとりがそれぞれの声を持っていました。

自分と他人は対立するものではなく、両輪となって回るものです。誰かを支えること、その声を届けようと支えることは良いことです。しかし、あなたは誰かの代弁者ではありません。自分自身が何を感じ、何を思い、どうしたいのかが大切です。つまりあなた自身が本当に大切です。自分自身の内側にある小さな声に耳を澄ませ、その声を大切にしてください。どうか私たちが、自身を大切に、その声を信じながら、誰かの光にもなれるような歩みをこれからも続けていけますように。

礼 拝

9月19日(金)	吉 松 純	大学宗教主事
22日(月)	松 谷 曄 介	薬学部宗教主事
23日(火)	落 合 建 仁	文学部宗教主事
24日(水)	小 室 尚 子	学院長・大学長
25日(木)	山田麻衣子	日本基督教団名古屋北教会牧師
25日(木)	小 板 橋 秀 行	日本フリースタイル競馬名古屋山キリスト教会牧師
26日(金)	吉 松 純	大学宗教主事
29日(月)	吉 松 純	大学宗教主事
30日(火)	木 下 喜 也	日本基督教団金城教会牧師
10月1日(水)	辻 順 子	日本基督教団鳴海教会牧師
2日(木)	落 合 建 仁	文学部宗教主事
2日(木)	小 室 尚 子	学院長・大学長
3日(金)	松 谷 曄 介	薬学部宗教主事
6日(月)	松 谷 曄 介	薬学部宗教主事
7日(火)	中 島 善 子	日本基督教団豊橋東田教会牧師
8日(水)	南 尚 浩	愛隣教会牧師
9日(木)	和 田 芳 子	日本基督教団東海教会牧師
9日(木)	落 合 建 仁	文学部宗教主事
10日(金)	吉 松 純	大学宗教主事
13日(月)	八 東 清	日本基督教団御器所教会牧師

創立記念礼拝

14日(火)	小 室 尚 子	学院長・大学長
16日(木)	田 口 博 之	日本基督教団名古屋教会牧師
16日(木)	松 谷 曄 介	薬学部宗教主事
17日(金)	山 田 詩 郎	日本基督教団名古屋北教会牧師
20日(月)	吉 松 純	大学宗教主事
21日(火)	稲 田 勝 之	日本基督教団中京教会牧師
22日(水)	池 上 牧 子	看護学部看護学科4年

秋の伝道週間

27日(月)	三 輪 地 塩	同志社大学神学部准教授
28日(火)	沖崎あいみ	大学院文学研究科2年
29日(水)	佐藤友花里	履修支援センター課員

30日(木)	小 林 結	文学部音楽芸術学科3年
30日(木)	後 藤 奈 々	東京神学大学神学生
宗教改革記念礼拝		
31日(金)	横 山 良 樹	日本基督教団半田教会牧師
11月3日(月)	宇井志緒利	明治学院大学法学部非常勤講師
4日(火)	松 谷 曄 介	薬学部宗教主事
5日(水)	落 合 建 仁	文学部宗教主事
6日(木)	山本歩乃歌	人間科学部現代子ども教育学科4年
6日(木)	平 松 恵 子	日本フリースタイル競馬名古屋山キリスト教会伝道師
7日(金)	吉 松 純	大学宗教主事
10日(月)	小 室 尚 子	学院長・大学長
11日(火)	山 田 詩 郎	日本基督教団名古屋北教会牧師
12日(水)	野 田 康 弘	薬学部教授
13日(木)	松 谷 曄 介	薬学部宗教主事
13日(木)	小 室 尚 子	学院長・大学長
14日(金)	落 合 建 仁	文学部宗教主事
17日(月)	原 田 望	大学事務部長
18日(火)	中 島 善 子	日本基督教団豊橋東田教会牧師
19日(水)	上 野 顕 子	生活環境学部教授
20日(木)	小 板 橋 秀 行	日本フリースタイル競馬名古屋山キリスト教会牧師
20日(木)	松 谷 曄 介	薬学部宗教主事
21日(金)	狩野進之佑	日本基督教団愛知守山教会牧師
25日(火)	置 田 牧 人	大学運営推進課課長
26日(水)	小 室 尚 子	学院長・大学長
27日(木)	安 達 正 樹	日本基督教団名古屋新生教会牧師
27日(木)	落 合 建 仁	文学部宗教主事
28日(金)	吉 松 純	大学宗教主事
12月1日(月)	洛 雲 海	日本基督教団奥沢教会牧師
2日(火)	小 室 尚 子	学院長・大学長
3日(水)	辻 順 子	日本基督教団鳴海教会牧師
4日(木)	田 中 文 宏	日本基督教団名古屋松山教会牧師
4日(木)	落 合 建 仁	文学部宗教主事
5日(金)	吉 松 純	大学宗教主事
8日(月)	八 東 清	日本基督教団御器所教会牧師

9日(火)	小 室 尚 子	学院長・大学長
10日(水)	CARTER, Michael	日本長老教会名古屋セントラル教会牧師
11日(木)	和 田 芳 子	日本基督教団東海教会牧師
11日(木)	南 尚 浩	愛隣教会牧師
12日(金)	狩野進之佑	日本基督教団愛知守山教会牧師
15日(月)	松 谷 曄 介	薬学部宗教主事
16日(火)	中 島 善 子	日本基督教団豊橋東田教会牧師
17日(水)	落 合 建 仁	文学部宗教主事
18日(木)	稲 田 勝 之	日本基督教団中京教会牧師
19日(金)	吉 松 純	大学宗教主事
22日(月)	小 室 尚 子	学院長・大学長
23日(火)	落 合 建 仁	文学部宗教主事
24日(水)	松 谷 曄 介	薬学部宗教主事

卒業予定者礼拝

1月5日(月)	吉 松 純	大学宗教主事
6日(火)	松 谷 曄 介	薬学部宗教主事
7日(水)	楚 輪 松 人	文学部教授
8日(木)	小 室 尚 子	学院長・大学長
8日(木)	長 屋 頼 子	学院長補佐
9日(金)	落 合 建 仁	文学部宗教主事

14日(火)	吉 松 純	大学宗教主事
15日(水)	安 藤 剛	事務局次長

成人記念礼拝

15日(木)	小 室 尚 子	学院長・大学長
16日(金)	落 合 建 仁	文学部宗教主事
19日(月)	松 谷 曄 介	薬学部宗教主事
22日(木)	小 板 橋 秀 行	日本フリースタイル競馬名古屋山キリスト教会牧師
22日(木)	小 室 尚 子	学院長・大学長
23日(金)	吉 松 純	大学宗教主事
26日(月)	安 達 正 樹	日本基督教団名古屋新生教会牧師
27日(火)	松 谷 曄 介	薬学部宗教主事
28日(水)	辻 順 子	日本基督教団鳴海教会牧師
29日(木)	落 合 建 仁	文学部宗教主事
29日(木)	吉 松 純	大学宗教主事

(赤字は昼の礼拝です)

朝の礼拝

日 時	月～金曜日 8時45分～9時
場 所	エラ・ヒューストン記念礼拝堂

昼の礼拝

日 時	木曜日 12時40分～12時55分 (伝道週間は13時5分迄)
場 所	エラ・ヒューストン記念礼拝堂

祈祷会

日 時	水曜日 8時10分～8時25分
場 所	キリスト教センターラウンジ

貴重聖書展示・パネル展

日 時	10月17日(金)～31日(金)
場 所	キリスト教センターラウンジ 図書館ラウンジ

感謝礼拝 (実験動物を記念して)

日 時	10月23日(木) 9時10分～9時50分
場 所	アニー・ランドルフ記念講堂
説 教	吉松純 (大学宗教主事)

キリスト教の時間

日 時	11月5日(水) 15時5分～16時35分
場 所	アニー・ランドルフ記念講堂
講 師	柳沢正史 (筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構長)

クリスマスツリー点灯式

日 時	12月1日(月) 17時～17時30分
場 所	N1棟前
奨 励	TAYLOR, Matthew A. (文学部教授)

クリスマスオルガンミニコンサート

日 時	12月1日(月) 17時30分～18時
場 所	エラ・ヒューストン記念礼拝堂
演 奏	有田知子 (大学オルガニスト)

クリスマスハンドベルコンサート

日 時	12月6日(土) 17時30分～19時30分
場 所	アニー・ランドルフ記念講堂
演 奏	ハンドベルクワイア
入場料	¥1,500

オルガンコンサート

日 時	12月12日(金) 12時40分～13時10分
場 所	エラ・ヒューストン記念礼拝堂
演 奏	オルガニスト養成講座受講生

大学クリスマス礼拝

日 時	12月18日(木) 17時～18時
場 所	アニー・ランドルフ記念講堂
説 教	山田麻衣子 (日本基督教団名古屋北教会牧師)

成人記念礼拝

日 時	1月15日(木) 12時40分～13時
場 所	エラ・ヒューストン記念礼拝堂
説 教	小室尚子 (学院長・大学長)



金城学院大学キリスト教センター

Tel. 052-798-0180
Email. ccoffice@kinjo-u.ac.jp
URL. <https://www.kinjo-u.ac.jp/ccoffice/>